

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立久居農林高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業と家庭の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成する学校 ・ 「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に活動できる生徒 ・ 社会貢献に意欲的に取り組む生徒 ・ 自他の人権と尊厳を尊重する生徒 ・ 自己の成長を実感できる生徒 ・ 将来の地域を担い、地域のリーダーとなる意欲を持った生徒
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動や取組の意義・目的を常に意識し、「チーム農林」で取り組む教職員 ・ 教科や分掌の専門性を高め、改善活動に取り組む教職員 ・ 生徒の成長に喜びを感じながら丁寧かつ柔軟に生徒の支援や指導に取り組む教職員 ・ 人権問題に対する正しい認識を持ち、自他の人権と尊厳を尊重する生徒の育成に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全で楽しく過ごせる学校 ・ 自己の存在が実感できる学校 ・ わかりやすい授業 ・ 進路希望の実現 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの成長を支える信頼できる学校 ・ 進路希望の実現 ・ 職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着 <p><地域住民></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に開かれた学校 ・ 地域を担い、リードする人材を育てる学校 ・ 基本的な生活マナーの定着 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力定着、進路希望実現 ・ 安心・安全に学べる環境 ・ 卒業後のケア <p><地域住民・産業界></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育資源の提供 ・ 知識や技能・意欲を有する生徒の育成 ・ 基礎学力の定着 <p><近隣保・幼・小・中・高校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育資源の提供 ・ 連携の強化 	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活指導等への理解と協力 ・ 学校行事への参加 ・ 家庭における基本的な生活習慣の確立 <p><地域住民・産業界></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育方針等への理解 ・ 教育活動への協力 <p><近隣保・幼・小・中・高校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育方針等への理解 ・ 連携の強化 ・ 連携事業への協力

<p>(3)前年度の学校関係者評価など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 榊原地区との産学官の連携事業では、食品コースと食生活コースの生徒に土産物やランチメニューの開発に取り組んでもらっており、地域を訪れる方から高評価をいただいている。また、高校生が店頭で接客する姿は、地域に元気と活力を与えてくれている。学校では経験できない実学は子ども達の成長にもつながるため、今後も、産学官の連携事業に積極的に取り組んでほしい。 ・ 授業見学をした際、電子黒板をうまく活用している授業があった。良い実践であり、今後も積極的に活用してほしい。 ・ 中学校では、ペアワークやグループ活動を取り入れ、教員が伴走者となって生徒の主体性を育む授業に取り組んでいる。高校においても授業改善は積極的に取り組むべき課題である。 ・ 中学校では遅刻をしてでも学校へ来るように促している。高校での遅刻指導は社会へ出るための準備としてのものであると思うが、校種間で指導の整合性を図ることができるとうい。 ・ 次年度、三重県で開催されるPTA全国大会で、本校は歓迎部門の担当として全国から訪れる方をもてなす。学校のPRをする良い機会でもあるし、生徒のモチベーションの向上にもつながる機会となるため、生徒も積極的に参加できるとよい。
<p>(4)現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ わくわく農林塾や地域と連携した取組は、本校生徒にとって日頃の学びを深め、成長する機会となっている。また、地域の人に高校での学びを身近に感じてもらい機会や元気と活力を届ける機会となっている。今後も、生徒の主体性や探究心をより育めるよう、内容の充実を図る必要がある。 ○学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度学校生活アンケートでは、「授業がわかりやすい」との回答が全ての学年で90.0%を上回った。一方で、学習に対する意欲や理解に課題のある生徒もあり、学校全体で「生徒による学習評価」に取り組み、生徒の実態に応じた教材や授業展開の工夫をさらに進める必要がある。 ○キャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や上級学校の人から直接話を聞く機会など進路ガイダンスの充実を図っている。今後も、専門学校や地域の事業所、各種団体等と連携した出前講座及び現場見学会等が生徒の今後の職業生活や社会生活の基盤となる力の育成につながるよう、教科科目やキャリア形成との関連性を踏まえて更に充実させる必要がある。また、生徒が日頃からビジネスマナーの基本を身に付けられるようにする必要もある。 ○生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立やマナー・ルールに関する意識の向上は社会で生きる上で大切なことであり、特に、遅刻を繰り返す生徒や授業に前向きに取り組めない生徒への指導が課題である。教室環境の整備や授業規律の徹底、落ち着いた学習環境づくりに取り組むとともに、学校全体で統一した指導が一層進むよう、生徒の状況を踏まえて指導の内容や方法を改善する必要がある。 ○保健管理の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な背景や心身に課題のある生徒、教室が落ち着ける場所でない生徒などが増えてきている。生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒の心と体の健康により一層寄り添うとともに、相談しやすい環境づくりや安心して学べる環境づくりを進める必要がある。

	学校運営等	<p>○組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「農林の現状と未来を考える会」及び「学校のあり方検討委員会」で、魅力ある学校づくりが進むよう検討や改善活動を進めている。学校が教職員にとって同じ目標に向かって協働できる職場や相談しやすい職場になるとともに、生徒や地域の人などにとって魅力ある学校になるよう、今後も改善活動を進める必要がある。 <p>○資質向上の取組、信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が専門高校として地域や産業界、保護者から求められる力について共通理解を図り、時代に応じた教育活動を展開する必要がある。また、生徒及び保護者、教職員のアンケート結果などをもとに、課題を明らかにするとともに、生徒理解や保護者理解をより進める必要がある。 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式インスタグラムや各種メディアを活用して本校の魅力を発信しているが、学校全体の取組になっていない。本校の魅力をより発信できるよう、インスタグラムの活用方法やプレスリリースの方法等を共有する必要がある。また生産物の販売や学習成果の発表など、生徒の活動する姿を通して学校の魅力をより発信していく必要がある。 <p>○働きやすい職場環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が安心して遣り甲斐を持って働くことができるよう、適正な業務分担を進める必要がある。また、「生徒にとって大切なこと」と「教職員が遣り甲斐を持って取り組めること」の観点から、日々の取組や仕組みの見直しを行う必要がある。
--	-------	---

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの学ぼうとする意欲を高めるため、生徒が課題を設定し解決する学習活動を推進する。 ・生徒の確かな学力の向上を図るため、教員が積極的に授業改善を進め、「わかる授業」「興味を喚起する授業」を行う。 ・生徒の進路希望を実現するため、組織的に進路指導を進める。また、あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学の見据えた進路指導を推進する。 ・生徒が農業クラブや家庭クラブの活動を通して探究活動を行い、学習成果の発表や意見交換をする場に積極的に参加できるよう支援する。 ・大学や産業界等と連携した実践的な職業教育を推進し、本県の産業界で活躍する人材を育成する。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢と感動の実現」を合言葉に、教職員自ら研修し、学習内容の充実や学力向上につながる授業改善に努める。 ・不祥事等を絶対に起こさないよう、学校信頼向上委員会での取組を推進し、全教職員でより一層地域に信頼される学校づくりに取り組む。 ・教職員が業務に充実感を得られるよう、互いに認め協力し合い共に働ける「チーム農林」を進める。 ・学校の課題や情報を共有し、継続的に改善するための仕組みが機能するようにする。

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿</p> <p>【アドミッション・ポリシー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強い志をもち、学習に意欲的・継続的に取り組むとともに、その学習を生かした資格取得などに積極的に挑戦しようとする生徒 ・高校で学習する専門的な内容等を生かした進路実現を果たそうとする生徒 ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に積極的に取り組める生徒
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1)生徒が主体となる授業の実践</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわく農林塾:各コース2回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートで自分の成長を感じたと回答した生徒の割合:90.0%以上 <p>(2)わかりやすい授業づくり</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科やコース等における授業見学:一人1回以上 ・生徒向けの授業アンケートの実施:一人1回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかりやすいと回答した生徒の割合:90.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全コースで延べ26回 ・農業科 91.5% ・生活デザイン科 93.8% ・11月17日から21日までを授業公開週間として実施 ・すべての教科で実施 ・94.75% 	◎
キャリア教育の充実	<p>(1)進路ガイダンスの充実</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス:各学年2回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの進路ガイダンスにおける生徒満足度:95.0%以上 <p>(2)主体的に進路を選択し実現する力の育成</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ:1回以上 ・担任面談:随時 ・進路ガイダンス:各学年2回以上 ・履歴書、志望理由書、面接等の指導:随時 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内に就職が内定した生徒の割合:95.0%以上 ・第一希望の大学・短期大学に合格した生徒の割合:90.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年2回、2年4回、3年3回 1年 ①96.7% ②97.8% 2年 ①97.9% ②98.0% ③99.4% ④95.0% 3年 ①99.0% ②99.0% ③97.5% ・各コースや学科におけるインターンシップ、現場見学会、出前授業、講演会、全教職員による面接指導等を実施 ・就職内定率 100% ・大学・短大合格率 98.6% 	◎
生徒指導の充実	<p>(1)服装・頭髪等の身だしなみ指導の徹底</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪・服装指導:年7回 ・声かけ:随時 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪再指導者の割合:5.0%以内(年度最終) <p>(2)いじめを許さない学校づくり</p> <p>【活動指標】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7回 ・2.9%(2月末現在) 	◎

	<ul style="list-style-type: none"> ・ラポール(いじめ)アンケート:年間3回 ・面談週間:年3回 ・声かけ週間:年10回(毎月第三週) 【成果指標】 ・いじめ解消率:100% <p>(3)規則正しい生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ・規則正しい生活習慣を身につけるための指導: 随時 【成果指標】 ・学校全体の遅刻の総数:1,000回未満 ・遅刻10回以上の生徒:15人未満 <p>(4)環境美化の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ・日々の清掃活動を中心とした環境美化の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回(学期に1回実施) ・3回(いじめアンケート後実施) ・随時 ・解消に向けて取り組み中 ・「時間厳守」を今年度の3大目標の1つに掲げ、生徒指導主事が全校集会で訓話 ・1,854回(2月末現在) ・60人(2月末現在) ・「整理整頓」を今年度の3大目標の1つに掲げ、環境美化に取り組んだ。 	
<p>保健管理の充実</p>	<p>(1)健康管理の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ・生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高めるための健康管理に関する指導:随時 ・すぐるを利用した生徒・保護者へのたよりの配信:年10回以上 【成果指標】 ・すべての検診を受診した生徒の割合:100% ・保護者アンケートの「健康管理や健康相談等、安心して学校生活を送れる配慮がされている」について、肯定的な回答をした保護者の割合: 85.0%以上 <p>(2)相談活動による生徒の不安解消に向けた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ・SCによる相談:70件以上 ・高校生活スペシャルマネージャーとの相談:15回以上 【成果指標】 ・保護者アンケートの「健康管理や健康相談等、安心して学校生活を送れる配慮がされている」について、肯定的な回答をした保護者の割合(再掲): 85.0%以上 <p>(3)命とからだを大切にすることを育む教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ・生徒向け研修会等:各学年1回以上 【成果指標】 ・事後アンケートで満足と回答した生徒の割合:90.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐるや紙面を活用し、季節等に応じて健康管理の重要性を伝えるとともに、健康不安のある生徒の相談に対応した。 ・モニターによる情報提供18回 ・保健だより10回(1月末現在) ・99.7% ・80.5% ・40件(2月末現在) ・10回(2月末現在) ・80.5% ・性教育講話で肯定的な感想が寄せられるなど、命とからだを大切にすることを育む教育活動の充実を図ることができた。 ・各学年1回 ・1年生 99.1% ・2年生 97.0% ・3年生 99.2% 	◎

改善課題

○学習指導の充実

- ・ わくわく農林塾は、本校生徒にとって、日頃学んでいることの振り返りや学校の魅力発信につながっている。引き続き、参加する児童・園児にとって、充実した内容になるようにする必要がある。
- ・ 2学期末に実施した「生徒授業アンケート」では、「考えを深めたり話し合いをしたりする時間」や「授業の振り返り・まとめ」、「学んだことが自分の生活や将来に役立つ」の各項目において、10%程度の生徒が十分ではないと回答していた。これらのことを共有して授業改善を進めていく必要がある。

○キャリア教育の充実

- ・ 生徒が企業や上級学校の話や直接聞くなど、昨年度よりも進路ガイダンスの充実を図れたが、生徒が日頃からビジネスマナーの基本を身につけられるようにする必要がある。
- ・ 教育活動全体を通して、職業生活や社会生活の基盤となる力の育成を継続的に図る必要がある。

○生徒指導の充実

- ・ 基本的な生活習慣の確立やマナー・ルールに関する意識の向上は社会で生きる上で重要なことであり、遅刻を繰り返す生徒への対応は課題の一つである。一方で、不登校傾向やヤング・ケアラーなど、生徒一人一人が抱える事情にも十分配慮する必要がある。個別の状況に応じて時間を大切に意識の醸成を図るとともに、教員が授業を大切に、生徒の学ぶ意欲を高める指導を進める必要がある。
- ・ 1月に実施した学校生活アンケートでは、生徒及び保護者、教員のいずれにおいても、設問「生徒指導のルールは適切であるか」に対する肯定的な回答が他の項目と比べて少なかった。校則等が生徒の自己指導能力の育成や主体的な行動につながっているかの観点で議論する必要がある。

○保健管理の充実

- ・ 生徒の心とからだの健康により一層寄り添っていく必要がある。保健室が話しにくいことを相談する場所になることが多いため、安心して話すことができる別室の確保が必要である。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	(1)教職員の意見をもとにした業務改善の実施 【活動指標】 ・ 業務改善提案:年1回(10月末) 【成果指標】 ・ 提案を踏まえた改善及び改善に向けた検討:100%	・100%	◎
	(2)魅力ある学校であり続けるための課題解決等に向けた検討 【活動指標】 ・ 「農林の現状と未来を考える会」及び「学校のあり方検討委員会」による検討:年5回以上 【成果指標】 ・ 「農林の現状と未来を考える会」の提言を踏まえた改善及び改善に向けた検討:100%	・考える会:3回 ・あり方検討委:3回 ・制服検討委:7回	
資質向上の取組、信頼される学校づくり	(1)指導力の向上 【活動指標】 ・生徒指導や教科指導に係る研修、コンプライアンス研修、人権研修等:各学期1回以上	・コンプライアンス研修:4回 ・人権研修:2回	

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事後アンケートで満足と回答した教職員の割合 :85.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導に関する研修:1回 健康安全に関する研修:2回 特別支援に関する研修:1回 コンプライアンス研修 70.5% 人権研修 88.9% 	
情報発信	<p>(1)積極的な情報発信</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新:随時 Instagramによるフォローアーク :2,000件以上 学校のPR(新聞報道、テレビ等):20件以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで、「HP等により学校の様子が伝わってきた」と回答した保護者の割合 :80.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 県外で発生した盗撮事件以降、動画や画像の扱いが難しくなり、学校のPRが不十分であった。 フォロワー数:1,635件 (2月末現在) プレスリリース:15件 (2月末現在) 64.5% 	
働きやすい職場環境づくり	<p>(1)総労働時間の縮減</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 :95.0%以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 :100%以上 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合:90.0%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数:0人 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数:0人 1人当たりの月平均時間外在校等時間 :25時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数:13日以上 	<ul style="list-style-type: none"> 79.4% (2月末現在) 100% 81.9% (2月末現在) 20人(2月末現在) 延べ92人(2月末現在) 19.8時間(2月末現在) 12.0日(2月末現在) 	

改善課題

○組織運営

・ 会議やアンケート、面談等を通して、学校としての方向性の共有をより進めるとともに、「新しい久居農林」を創るという共通認識のもと、学校全体で学校改革や改善活動に取り組んでいく必要がある。また、生徒・保護者・地域の意見を把握し、学校運営に反映する必要がある。

○資質向上の取組、信頼される学校づくり

・ 各種研修について、回数の確保だけではなく、現時点の課題に即した内容とし、教職員が研修成果をより実感できるよう工夫する必要がある。

○情報発信

・ 中学生やその保護者、地域社会に対して本校の良さをより的確に伝えていくことが重要な課題の一つである。他校の取組を参考に、SNSの活用に加え、多様な方法を用いた魅力発信を充実する必要がある。

○働きやすい職場環境づくり

・ 1月に実施した教職員アンケート(全30項目)では、業務分担の在り方や業務量に関する設問に対して肯定的な回答が他の項目に比べて少なかった。定時退校の促進や会議時間の縮減に向けた意識の共有とあわせて、業務内容の見直しや役割分担の工夫による業務の平準化を進めるなど、働き方の改善に向けた取組を進めていく必要がある。

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の際、見学者が見学しやすいよう、扉を開けておくなど環境づくりが必要である。 ・ 公開期間を3日間などに限定することで、見学者の分散が避けられるのではないか。また、この期間に研究授業を行っても良いのではなか。 ○生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめを許さない学校づくり」に向けて、日々、教員がアンテナを高くして生徒に接することが大切である。 ・ 中学校では、不登校生徒の居場所として、校内教育支援センターが機能している。高校では難しいかも知れないが、中学校での取組を知っておいてほしい。 ・ 様々な活動を通して、人から必要とされる実感の持てる経験をさせてほしい。 ○社会貢献意欲・自己肯定感の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会貢献意欲の醸成には地域ニーズを発見しようとする姿勢や、ボランティア活動への参加などが必要であり、その視点で今後の取組を考えてほしい。 ・ 榊原地域との連携について、高校生は地域住民以上に地域のことを考えてくれている。引き続き地域振興に協力して欲しい。 ○情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ インスタグラムの若者へのPR効果は有効。制限がかかる中でも、できることはある。今後も発信し続けてほしい。 ・ 保護者の学校に対する評価が低いことがある。学校と保護者のギャップを縮めるためにも情報発信は必要である。中学校では「子どもは家庭への広告塔」との意識で取り組んでいる。 ○働きやすい職場環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議における終了時刻の目安の明示や資料の事前配付などを行うことで、会議の時間短縮を図って欲しい。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ わくわく農林塾を実施する際に、対象校の教職員の感想や意見を把握し、内容の改善・充実につなげる。 ・ 授業において、主体的・対話的で深い学びや振り返り、生活や将来に結びついた学びの充実が課題として明らかになった。「生徒授業アンケート」の結果を踏まえて課題の共有を行うとともに、教科会における対応策の検討や授業交流を通じた好事例の共有を行い、より魅力的な授業づくりを進めていく。 ○キャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が日常的にビジネスマナーの基本を身に付けられるよう、学校生活全般において挨拶や言葉遣い、態度等に関する継続的な指導を行う。また、授業と校外活動に関連付け、実践を通して社会で求められるマナーを意識させる取組を進めていく。 ・ 生徒の学びの深化や、将来の職業生活・社会生活の基盤となる力の育成を図るため、教科・科目とキャリア形成との関連を踏まえ、上級学校や地域の事業所、各種団体等と連携した出前講座や現場見学会の充実を進める。これらの取組を通して、生徒一人一人が社会や職業において自立するために必要な能力や態度を身に付けられるよう支援していく。 ○生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の状況や社会の変化を踏まえた指導や、学校全体で統一した指導がさらに進むよう、課題を明らかにし、必要に応じて指導方法等を改善する。 ・ 遅刻の多い生徒については、面談等を通じて状況の把握に努め、生活実態や背景を踏まえた丁寧な支援を行い、改善につなげていく。 ・ 日々の清掃を徹底し、教室環境の整備を行うとともに、挨拶や言葉遣いの指導を
---------------------	---

	<p>充実させるなど、授業規律の徹底や落ち着いた学習環境づくりに取り組む。</p> <p>○保健管理の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が安心して相談できる環境を整えるため、保健室を中心とした相談機能の充実を図るとともに、今後使用しない教室が生じた際には相談室として利用できるよう、検討を進めていく。
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の在り方や方針等を検討する過程において共有が必要な情報について、適切に情報共有を行うとともに、日常的な対話や意見交換の機会を増やし、教職員一人一人の声を学校運営に反映させていく。 <p>○資質向上の取組、信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種研修を引き続き計画的に実施するとともに、教職員が成果を実感できる研修となるよう、外部講師による研修や他校の取組を参考にした事例共有など、内容や方法を工夫する。 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSによる情報発信は、教職員が内容を管理・作成することを基本としつつ、中学生の感覚に近い生徒が運営や発信に関わるなど、新たな手法の導入を検討する。また、中学校への情報提供に加え、保護者向け説明会など他校の取組も参考にしながら、多様な機会を通じて学校の魅力発信を充実させていく。 <p>○働きやすい職場環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務分担や業務量に対する負担感の軽減を図るため、分掌や学年の業務内容を点検し、業務の精選と役割分担の調整を行う。また、会議の目的や進行方法の整理、資料の事前共有、時間設定の明確化を図ることで、会議時間の縮減につなげる。